

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 3年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	作者のメッセージを受け止め、思いを込めて合唱しよう(4)				系単元性の	1年生では2部合唱に2曲取り組み、発表を行った。その後新型コロナウイルス感染症対策として歌唱活動に制限があり、卒業式歌は2年連続歌えていない。2年生では3部合唱に初めて取り組み、パート練習を自分たちでより良いものに行こうとする姿勢が見られた。		
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 思いを込めて明るい声で歌おう</p> <p>①本校で平和学習の一環として行ってきた「故郷の廃家」について、歌唱の歴史について知り、のびのびとした発声で歌う。(小笠原学習)</p> <p>2 作者のメッセージを受け止め、思いを込めて合唱しよう</p> <p>①前年度の学年合唱を振り返り、新学年での音楽発表会に向けた合唱曲選曲を行う。</p> <p>②曲想と歌詞の内容との関わりについて理解するとともに、それらを生かした歌唱表現を工夫する。</p> <p>③パート間のバランスを考えて合唱する。</p> <p>〈○主体的△対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)過去の3年生がどのように取り組んできたか知るとともに、過去の合唱活動を振り返り課題を共有して取り組む。</p> <p>△(対話的)パート練習の進め方について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)曲想や歌詞の内容から、どのような表現が相応しいか考え、演奏に生かすための練習を工夫する。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①パート練習で、言葉掛けの受け取り方から練習に難しさを感じる生徒が出ることもあり、グループとしての課題に向き合うことが難しくなることがある。</p> <p>②人数が少ないパートでは、1人の声質が全体を左右するため、合わせる際に「上手く混じり合わない」と感じることもある。</p>			
	<p>工夫・手立て</p> <p>①パート練習の方法について、これまでの経験をもとにリーダーが話し合い、前年度気を付けたことや発表を経て練習に生かせるポイントを生徒に把握させる。1時間ごとの練習目標で各ポイントをクリアできているか自己評価させる。</p> <p>②発声方法に関する練習を増やし、少人数のアンサンブルとして声を合わせる活動を取り入れる。</p>								
評価規準									
知識・技能		創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。			思考・表現判断		音色、旋律、構成を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。		主体的に学習に取り組む態度
		<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p>					<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>		<p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>
月	単元名	全校吹奏楽:基本奏法と楽曲練習(4)				系単元性の	第1学年では管楽器の基本奏法を学び、全校発表で楽曲を1曲演奏した。第2学年では、経験したことをパートの後輩に伝える方法について学び、リーダーを中心に練習をまとめた。全校発表では2曲に取り組み、運指や息の使い方など管楽器演奏の方法が定着しつつある。		
4 ・ 5 ・ 6 ・ 7	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫			
	<p>1 後輩指導に向けた基礎事項の確認</p> <p>①1年生とのパート練習で、基礎事項の定着と楽曲練習の方法について、実演を交えて伝える。</p> <p>2 楽譜の読み方を知る</p> <p>①調号と臨時記号の読み方練習(ドリル学習)</p> <p>3 楽曲練習</p> <p>①発表会に向けた楽曲の運指とリズム練習</p> <p>〈○主体的△対話的で深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)2学年時に学んだ後輩指導の方法をさらに深め、リーダーを中心とした練習方法を確立する。</p> <p>△(対話的)異学年交流を通して、生徒の対話を促すことで楽器演奏に対する意欲を高め、理解を深める。</p> <p>□(深い学び)個人の楽器練習だけでなく、パートや全体合奏の視点ももち、演奏向上のために必要な練習を工夫させる。</p>					<p>つまずきやすいポイント</p> <p>①3年生が1年生に正しい運指を教えるためには、調号を含めた正しい読譜ができることが必要である。</p> <p>②パート練習をどのように進めたら良いかわからず、後輩に声をかけにくい状況が生まれる。</p>			
	<p>工夫・手立て</p> <p>①合同練習の前に、事前に3年生の理解度を確かめ、生徒自身が自信をもって後輩に伝えられるよう準備する。</p> <p>②あらかじめパート練習のメニューを統一しておき、パート内で進め方を話し合っておく。</p>								
評価規準									
知識・技能		創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。			思考・表現判断		リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。		主体的に学習に取り組む態度
		<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p>					<p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p>		<p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 3年 年間指導計画					
小学校				中学校								
1	2	3	4	5	6	1				2	3	
月	単元名	「ブルタバ」(2)				系単元性の	1学年では、「春-第1楽章-」でそれぞれの場面に付けられたソネットから音楽の情景を思い浮かべ、楽器の組み合わせ方や音色の変化を感じ取る活動を行った。2学年では、「交響曲第5番ハ短調」で、作曲者の人生観が楽曲に反映されている背景を踏まえて鑑賞活動を行った。					
6	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	<p>1 オーケストラの響きを味わう</p> <p>① 標題によって変化する楽器の音色と、ブルタバ川の情景の変化を結びつけて鑑賞する。</p> <p>2 交響詩の特徴を理解する</p> <p>① 標題のイメージが、音色、旋律、強弱などと深く結びついていることを知り、曲想と音楽の構造との関わりを理解する。</p> <p>3 作品の背景について知る</p> <p>① 歴史的・社会的背景や作曲者の思いを知ることで、音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解を深める。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)作曲者の生き方に関心をもたせることから学びに入る。</p> <p>△(対話的)主題の印象について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)オーケストラ楽器の組み合わせ方によって音色の印象が変化することから、吹奏楽の演奏表現に生かす。</p>						つまずきやすいポイント	<p>① 同じ旋律が短調から長調に変わる時、印象の変化から同じ旋律と気づくための工夫が必要である。</p> <p>② 曲を聴きながら、どの情景に移ったか理解して鑑賞する必要がある。</p>				
								工夫・手立て	<p>① あらかじめキーボードでメロディの違いや印象の変化をワークシートにまとめてから鑑賞に移る。</p> <p>② 情景の変化に応じて掲示物を効果的に使い、教科書の記載内容と照らし合わせる。</p>			
評価規準												
知識・技能		曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。			思考・表現・判断		音色、リズム、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考える。音楽のよさや美しさを味わって聴いている。		主体的に学習に取り組む態度		曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	
		・ワークシート ・定期考査					・ワークシート ・定期考査				・ワークシート ・定期考査 ・観察	
月	単元名	全校吹奏楽:基本奏法と楽曲練習(7)				系単元性の	1学期のパート練習では、昨年度の経験を生かして、どのような練習方法が後輩にとってより分かりやすいか考えて進めた。今学期は中学校で経験した全校吹奏楽の集大成として、新しい楽曲に取り組むとともに、下級生にグループ練習の進め方を提示するリーダーシップも育成していく。					
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	<p>1 パート別練習</p> <p>① 発表会に向けた楽曲の運びとリズム練習。</p> <p>2 グループ練習</p> <p>① 楽曲の中で同じ役割を担うパート同士で集まって練習する。</p> <p>3 全体合奏(曲想を感じ取って器楽表現を工夫する)</p> <p>① 全校で合奏し、本番に向けて準備する。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)楽曲練習を自主的に進め、分からない箇所を見付けてグループ練習で解決する。</p> <p>△(対話的)グループ練習や合奏などを生徒主体の活動にすることで対話を一層促進し、理解を深める。</p> <p>□(深い学び)より良い演奏にするためにリーダーがどのような役割を担うべきか考え、練習方法に生かす。</p>						つまずきやすいポイント	<p>① 読譜から運指への移行で不安をもつ生徒がいる。</p> <p>② パートや全体合奏のまとめ方が分からず、後輩に対して自信をもって関わることができない場合がある。</p>				
								工夫・手立て	<p>① 調号を含めた読譜を個別に指導し、運指表の見方と合わせて確認する時間を取る。</p> <p>② 楽曲のまとめ方について、リーダーにあらかじめ共通した方法を提示し、合奏前の練習で定着できるようにする。</p>			
評価規準												
知識・技能		創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。			思考・表現・判断		リズム、旋律、強弱、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じ取りながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。		主体的に学習に取り組む態度		曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	
		・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査					・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査				・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査	

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 3年 年間指導計画					
小学校				中学校								
1	2	3	4	5	6	1				2	3	
月	単元名	「花」(3)				系単元性の	これまで共通教材として「浜辺の歌」「夏の思い出」に取り組み、今回が3曲目となる。それぞれの教材は日本各地の情景を歌っているため、小笠原の自然との対比や説明をしながら、歌詞についての理解を深めていく。					
9	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	<p>1 歌詞の情景や心情、曲の背景に関心をもつ</p> <p>①曲の背景に関心を持ち、曲の印象などをワークシートに記入する。</p> <p>②1番から3番までを鑑賞し、それぞれの音楽を形作っている要素について考える。</p> <p>2 相応しい歌唱表現としてどのように表すか考え、全体の響きを考えながら2部合唱する</p> <p>①日本語の歌詞と旋律の動きとの関わりを理解して歌う。</p> <p>②強弱記号の意味を理解して、旋律ごとに変化する表現方法を工夫して歌う。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)これまでに学んだ共通教材について振り返り、共通教材を学習する意味を考える。</p> <p>△(対話的)歌ったり聴いたりして、リズムやテクスチャ、強弱などから知覚したことをワークシートに記入して意見を共有する。</p> <p>□(深い学び)他の歌唱教材と比較して、歴史的な側面から歌い方がどのように変化したか考える。</p>						つまずきやすいポイント	①似ている旋律が何箇所かあるため、正しく歌えるようになるために工夫が必要である。		工夫・手立て	②休符を感じながら歌唱することが難しく、なぜ休符が使われているか意味を理解し、歌い方を工夫して歌う必要がある。	
								①旋律を対比させて、違いを理解しながら歌唱する。			②休符には息継ぎの場所と息継ぎをせず止める場所があることを理解させ、遅いテンポで練習を始める。	
評価規準												
知識・技能	<p>創意工夫を生かし、全体の響きや各声部の声などを聴きながら他者と合わせて歌う技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p>				思考・表現・判断	<p>音色、旋律、リズム、テクスチャ、強弱を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>「花」の魅力やその背景および情景を2部合唱で工夫して表現することに関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>			
月	単元名	世界の諸民族の音楽(1)				系単元性の	民族音楽は単元としては初めて扱う。小笠原小学校出身者は総合的な学習の時間等で、小笠原の楽器力や南洋踊りなどに触れており、諸外国の影響が強い小笠原の固有文化を身近に感じる土地柄である。当該学年は1年生時に日本の民謡を扱った際に小笠原の音楽文化について学んだ。					
11	学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫					
	<p>1 楽器ごとの音の出し方を考える</p> <p>①様々な国の打楽器や管楽器から、音の出し方を分類する。</p> <p>2 音色や旋律などの特徴の理解</p> <p>①楽器に焦点を当てて世界の諸民族の音楽を聴き、音楽表現の共通性や固有性について考える。</p> <p>3 異文化との比較</p> <p>①それぞれの音楽について、歴史的・社会的背景や音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わりについて理解を深める。</p> <p>②似た構造をもつ楽器を対比させ、地域の伝播について学ぶ。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)様々な民族楽器に興味関心を持ち音色の違いを知覚する。</p> <p>△(対話的)様々な音の出し方について意見を出し合う。</p> <p>□(深い学び)世界の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる多様性について理解する。</p>						つまずきやすいポイント	①身近に触れる機会が少ない音楽であり、見たことのない楽器の音色が含まれるため、鑑賞するポイントを分かりやすく示す必要がある。		工夫・手立て	②映像や画像が多くなるため、生徒の興味関心を持続させる工夫が必要である。	
								①鑑賞曲を2曲から3曲に絞って、比較することで言語化しやすくする。			②できる限り実物を使い、音色を直接聴く活動を取り入れる。	
評価規準												
知識・技能	<p>我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>				思考・表現・判断	<p>音色、リズム、旋律を知覚し、それらの動きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考えとともに、生活や社会における音楽の意味や役割について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>		主体的に学習に取り組む態度	<p>我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心を持ち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p> <p>・観察</p>			

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 3年 年間指導計画			
小学校				中学校						
1	2	3	4	5	6	1				2
月	単元名	曲の構成や曲想の変化を生かして合唱しよう(4)				系単元性の	1学期に始めた合唱であるが、今学期は発表に向けて、できる限り生徒だけで演奏を仕上げる力を身に付ける。これまでの合唱活動を振り返り、どのような演奏にしていきたいか意見を交換しながら合唱をまとめていく。この単元を通して、卒業合唱に向けて堂々と歌える生徒を育てる。			
9 ・ 10 ・ 11 ・ 12	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<p>1 フレーズや旋律の動き、強弱を生かした表現を考える。 ①歌詞の内容を活かして音楽表現を工夫する。 ②曲想表現で、強弱の盛り上がりをもとに考える。 2 曲の構成を生かした合唱をする ①曲全体の構成を考慮して、パートの役割を生かした表現方法を話し合う。 ②パートごとの強弱表現を考えて歌う。</p> <p>△(主体的△対話的)で□深い学びからの授業改善の工夫 ○(主体的)パート練習に積極的に関わり、より良い演奏に近付けるための練習を進めることができる。 △(対話的)効果的なパート練習について意見を出し合う。 □(深い学び)全体の響きを客観的に聴き、より良い演奏にするために必要な課題を見出して表現に生かす。</p>					つまずきやすいポイント	<p>①パートの音量バランスなどで、指揮者や観客の視点から改善する必要がある。 ②生徒主体のグループ練習の際に、捉え方の違いなどによって意見がまとまらず、練習が進みにくくなることがある。</p>			
						工夫・手立て	<p>①指揮者やリーダーだけでなく、可能な限り生徒が交代で自分たちの演奏を離れたところから鑑賞する。ビデオ撮影や録音を使い、パート練習に生かす。 ②決められた時間内で練習する項目を明確にし、グループとしての目標を設定させる。目標に向かって演奏が変化したかどうか自己評価しながら練習を進める。</p>			
評価規準										
知識・技能	創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。				思考・表現・判断	音色、旋律、構成を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。			主体的に学習に取り組む態度	合唱表現の多様さに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。
	・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査					・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査 ・ワークシート				・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査
月	単元名	全校吹奏楽:基礎合奏、楽曲練習(3)				系単元性の	中学校全校吹奏楽最後の取り組みとして、基礎合奏の方法について異学年の学び合いを行うとともに、12月に行った音楽発表会での楽曲を合奏することで下級生に3年間吹奏楽で学んだことを伝えていく。			
1 ・ 2 ・ 3	学習活動					「わかる」から「できる」授業への工夫				
	<p>1 音階練習 ①各楽器の運指でB-durの音階練習をする。 2 基礎合奏 ①バランス、スケール、ハーモニーの3種類を各パートで練習する。 ②音程の合わせ方(チューナー)を学ぶ。 ③全体でテンポを合わせて基礎合奏をする。 3 楽曲練習 ①2学期の発表で行った楽曲を改めて合奏する。 ②基礎合奏の方法を活かして、テンポや音程を合わせながら合奏する。 △(主体的△対話的)で□深い学びからの授業改善の工夫 ○(主体的)吹奏楽の基本音階であるB-durの運指を理解して覚えながら演奏する。 △(対話的)正しい運指やハーモニーの合わせ方について対話しながら理解を深める。 □(深い学び)音程やテンポを合わせるために、チューナーやメトロノーム、合奏用キーボードを用いてパートなどのグループで合わせる。</p>					つまずきやすいポイント	<p>①各楽器のB-dur音階で調号が異なるため、#やbを見落としてしまい、運指を間違えて覚えてしまうことがある。 ②チューナーとメトロノームの使い方については既習済みであるが、音程をどのようにして変えてチューナーに合わせていくか、慣れるまで時間が掛かる。</p>			
						工夫・手立て	<p>①個人実技テストを行うなどして、正しい読譜と運指ができていないか教師が直接確認し、誤りがある場合は早い段階で修正する。 ②口の筋肉の使い方や息のスピード、姿勢などで音程が変わることを指導する。また、ロングトーンで1音を揺れないで吹けるように練習する時間を設ける。</p>			
評価規準										
知識・技能	創意工夫を生かした表現で演奏するために必要な奏法、身体の使い方などの技能を身に付け、器楽で表している。				思考・表現・判断	リズム、旋律、速度を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて思いや意図をもっている。			主体的に学習に取り組む態度	全校吹奏楽の活動に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協動的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。
	・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査					・観察 ・パフォーマンステスト ・定期考査				・観察 ・ワークシート(自己評価) ・定期考査

学年							小笠原村立小笠原中学校 音楽科 3年 年間指導計画		
小学校						中学校			
1	2	3	4	5	6	1	2	3	
月	単元名	卒業式歌「あおぞらに」「蛍の光」「仰げば尊し」(6)				系単元性の	卒業式歌は毎年同じ楽曲に取り組んでいるが、新型コロナウイルス感染症予防として近年歌唱を見送った経緯があるため、改めて旋律の動きやリズムなどを定着させる必要がある。中学校最後の歌唱曲として、パートのまとまりを作り、全体の響きを感じながら歌えるようにする。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
1	2	<p>「あおぞらに」(2部合唱)(小笠原学習)</p> <p>1 歌詞の内容や曲想に関心をもつ</p> <p>①作曲家と小笠原中学校について紹介する。</p> <p>②小笠原中学校生徒の卒業式で歌い継がれている曲であることを知り、歌詞の内容を理解する。</p> <p>2 音色、リズム、音程、構成に注意して歌唱する</p> <p>①4部合唱を2部合唱等に分けて正しい音程とリズムで歌う。</p> <p>3 曲にふさわしい歌唱表現を考える</p> <p>①強弱表現を入れて歌唱する。</p> <p>「蛍の光」「仰げば尊し」(斉唱)</p> <p>1 旋律とリズムを正しく知覚し、歌唱表現を工夫する</p> <p>①歌詞と旋律の関係を感じ取り、強弱や響きの変化を歌唱で表現する。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)曲の背景や作詞・作者の思いを理解して歌う。</p> <p>△(対話的)音の跳躍など、歌唱する際に気を付けるべきポイントをパート等で話し合う。</p> <p>□(深い学び)歌詞の内容と曲想の変化について、作曲者がなぜこのように作曲したのかについて考える。</p>				つまずきやすいポイント	<p>①「蛍の光」と「仰げば尊し」の歌詞について、言葉の意味や抑揚を理解していないと歌唱でつまずきやすい。</p> <p>②「あおぞらに」のリズムが旋律によって異なり、似ている箇所の間違えやすい。</p>		
3							工夫・手立て	<p>①言葉の意味や歌詞の大意を理解した上で、旋律との関わりを意識しながら歌唱する。</p> <p>②歌詞によって似ているリズムを取り出して焦点化させる。</p>	
評価規準									
知識・技能	<p>創意工夫を生かした表現で歌うために必要な発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身に付け、歌唱で表している。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>				思考・表現・判断	<p>音色、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。</p> <p>・観察</p> <p>・パフォーマンステスト</p> <p>・定期考査</p> <p>・ワークシート</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・観察</p> <p>・ワークシート(自己評価)</p> <p>・定期考査</p>	
月	単元名	能「敦盛」(1)				系単元性の	1年時に日本の民謡、2年時に歌舞伎に続いて日本の伝統芸能は3単元目となる。3学年の道徳教科書に能に関する教材があるため、可能であれば連携して学習を進める。		
学習活動						「わかる」から「できる」授業への工夫			
1		<p>1 能への関心を高める</p> <p>①小学校国語教材で「柿山伏」を学習していれば、能と狂言の関係について触れる。</p> <p>②能で使われる面をいくつか紹介する。</p> <p>2 能の成り立ちや表現方法、音楽、舞台などの特徴を理解する</p> <p>①使われている楽器や舞、舞台装置を学ぶ。</p> <p>3 謡のコトバとフシの特徴を感じ取る</p> <p>①「敦盛」の台詞を抑揚を付けて朗読する。</p> <p>4 「敦盛」のあらすじを理解する</p> <p>①あらすじと平家物語を学び、当時の価値観や登場人物について興味を高める。</p> <p>〈○主体的△対話的で□深い学びからの授業改善の工夫〉</p> <p>○(主体的)謡や囃子の音色やリズム、演者の所作や舞、歴史的背景などに興味をもって鑑賞する。</p> <p>△(対話的)謡のコトバやフシの特徴を捉えて一緒に朗読する。</p> <p>□(深い学び)謡のない演奏部分の面白さについても着目し、合わせ方や速度の変化に気付く。</p>				つまずきやすいポイント	<p>①歌詞の表記が現代と異なることや、歌詞が現在使われていないこともあり、言葉をうまく発声できないことがある。</p> <p>②対話型の演劇と異なる表現方法であるため、登場人物の心情や舞の意味を理解して鑑賞する必要がある。</p>		
							工夫・手立て	<p>①謡のツヨ吟、ヨワ吟をしっかり付けるとともに、息継ぎの場所についても練習することで発声しやすくする。</p> <p>②言葉だけによらない表現に着目し、演者の動きからも内容を理解できるようにする。</p>	
評価規準									
知識・技能	<p>我が国の伝統音楽の特徴とその特徴から生まれる音楽の多様性について理解している。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>				思考・表現・判断	<p>音色、リズム、速度、旋律を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p>	主体的に学習に取り組む態度	<p>我が国の伝統音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性に関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p> <p>・ワークシート</p> <p>・定期考査</p> <p>・観察</p>	